

# FFG

FREE  
¥0  
ご自由にお持ち帰りください。

ディスクロージャー誌

2019

あなたのいちばんに。編



特集

## SDGs

～未来を創り、  
つなげていくために～



第6次中期経営計画

トップメッセージ

あなたとともに  
歩む積立投資

2018年度の  
業績ハイライト

FFGの社会的責任  
CSRレポート



あなたのいちばんに。

健やかな毎日への願いをこめて

ふくおかフィナンシャルグループは、  
まちや人が輝く場面を  
ともに創り、寄り添うことで、  
地域とともに、お客さまとともに  
成長していく存在となることを  
目指しています。

いちばん近くで  
いちばん頼れる  
いちばん先に行く

それが、私たちからお客さまへの約束です。

## Contents

- 2 グループ銀行プロフィール、  
FFGのネットワーク
- 3 トップメッセージ  
第6次中期経営計画
- 5 特集 SDGs～未来を創り、つなげていくために～
- 7 FFG TOPICS
- 9 FFGの商品&サービス
- 11 CSRレポート 2019
- 13 ふくおかフィナンシャルグループ  
経営戦略
- 14 業績ハイライト

## PROFILE

# グループ銀行 プロフィール

2019年3月末日現在

ふくおかフィナンシャルグループは九州を基盤とした広域展開型地域金融グループです。



設立日 平成19年4月2日  
 本社所在地 福岡市中央区大手門一丁目8番3号  
 資本金 1,247億円  
 従業員数 8,129人(4行合算)  
 電話(代表) 092-723-2500  
 U R L <https://www.fukuoka-fg.com/>

連結子会社 2019年5月末日現在

26社

(うち福岡銀行連結13社・  
十八銀行連結6社)

### 格付情報

**A+** R&I 発行体格付  
**A** JCR 長期優先債務格付



①昭和20年3月31日  
 ②福岡市中央区天神二丁目13番1号  
 ③823億円  
 ④3,718人  
 ⑤092-723-2131  
 ⑥<https://www.fukuokabank.co.jp/>

明治10年、第十七国立銀行として創業。  
九州全域を営業エリアとする。

①昭和4年1月19日  
 ②熊本市中心区水前寺六丁目29番20号  
 ③338億円  
 ④879人  
 ⑤096-385-1111  
 ⑥<https://www.kumamotobank.co.jp/>

昭和4年創業。  
熊本県内を主要営業エリアとする。

①昭和14年9月1日  
 ②長崎県佐世保市島瀬町10番12号  
 ③368億円  
 ④1,160人  
 ⑤0956-24-5111  
 ⑥<https://www.shinwabank.co.jp/>

明治12年、第九十九国立銀行として創業。  
長崎県内を主要営業エリアとする。

①明治30年7月  
 ②長崎市銅座町1番11号  
 ③244億円  
 ④1,289人  
 ⑤095-824-1818  
 ⑥<https://www.18bank.co.jp/>

明治10年創業。長崎県内を主要営業  
エリアとする。

貸出金	資金量	格付
9.8 兆円	10.6 兆円	AA- <sup>*1</sup> A+ <sup>*2</sup> A3 <sup>*3</sup>

貸出金	資金量	格付
1.5 兆円	1.4 兆円	A+ <sup>*1</sup> A <sup>*2</sup>

貸出金	資金量	格付
1.7 兆円	2.2 兆円	A+ <sup>*1</sup> A <sup>*2</sup>

貸出金	資金量	格付
1.8 兆円	2.6 兆円	A <sup>*2</sup>

\*1 R&I 発行体格付 \*2 JCR 長期優先債務格付 \*3 Moody's 長期預金格付(2018年6月6日時点)

①設立日 ②本店所在地 ③資本金 ④従業員数 ⑤電話(代表) ⑥URL

## NETWORK

# FFGのネットワーク

2019年5月末日現在

### 海外ネットワーク



### 合計

本支店: 428店舗  
 出張所: 14ヶ所  
 A T M: 2,522台

**福岡**  
 本支店: 168店舗  
 出張所: 4ヶ所  
 A T M: 1,263台

**大分**  
 支店: 3店舗  
 A T M: 10台

**長崎**  
 本支店: 167店舗  
 出張所: 9ヶ所  
 A T M: 949台

**佐賀**  
 支店: 10店舗  
 A T M: 29台

**熊本**  
 本支店: 65店舗  
 出張所: 1ヶ所  
 A T M: 250台

**九州外**  
 支店: 10店舗  
 A T M: 12台

**鹿児島**  
 支店: 4店舗  
 A T M: 7台

**宮崎**  
 支店: 1店舗  
 A T M: 2台

※福岡銀行/福岡県の支店には振込専用支店1、インターネット専用支店1を含む。  
 ※親和銀行/長崎県の支店には振込専用支店1を含む。  
 ※ATMには共同ATMを含む。

# 第6次中期経営計画

「長期ビジョン」『ザ・ベストリージョナルバンク』の

実現に向けた「進化の第2ステージ」

ふくおかフィナンシャルグループ

取締役会長兼社長

柴戸 隆成



## はじめに

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

本年4月1日、十八銀行が新たな仲間として加わり、当社グループは4行体制で新たなステージへと踏み出しました。基本合意の公表から3年以上を要しましたが、統合が実現できたのは、多くの方々のご支援があったからこそと感謝申し上げます。

2020年10月1日には、親和銀行と十八銀行が合併し、「十八親和銀行」が誕生いたします。合併により更なる効率化・高度化を進め、経営体力を高めることで、「将来にわたり長崎経済の発展に貢献する」という経営統合の目的を果たしてまいります。

## 第5次中期経営計画を振り返って

当社グループでは、2016年4月からの10年間を「進化のステージ」と位置づけ、長期ビジョンとして「持続的に高い競争力・成長力を実現する『ザ・ベストリージョナルバンク』」を掲げております。「進化の第1ステージ」として位置づけた第5次中期経営計画（2016年4月～2019年3月）では、今後の環境変化にも揺るぐことのない経営基盤の構築と持続的な成長を実現するため、「コア事業の磨き上げ」「構造改革」「イノベーションの加速化」を進めることで、営業・人財・組織など、あらゆる面で体制強化を図ってまいりました。

その結果、2019年3月末の3行合算の貸出金残高は1・1兆円増加して11・5兆円、預金残高は1・3兆円増加して14・2兆円と、

業容は順調に拡大しております。また、収益面においてもプラス成長を維持し、2018年度の連結当期純利益は51.6億円となり、2年連続で過去最高益を更新しました。

## 第6次中期経営計画の概要

第6次中期経営計画では、長期ビジョン「ザ・ベストリージョナルバンク」の実現に向けた「進化の第2ステージ」として、前中計で進めてきた構造改革を加速させ、捻出したリソースの成長分野への投入やデジタル技術の活用により、事業モデルの高度化を進めていくなど、改革の成果を具現化していくとともに、事業領域の更なる拡大に向けた基盤の構築を進めてまいります。

加えて、長崎における十八銀行との経営統合、親和銀行と十八銀行の合併を確実に遂行し、統合シナジーを早期に創出することで、長崎の経済活性化に貢献してまいります。

本計画では、基本方針「地域経済発展への貢献」と、FFG企業価値の向上との好循環サイクルの実現に基づき、「業務プロセスの再構築」「事業モデルの高度化」「デジタルトランスフォーメーションの推進」による構造改革と、それを下支えする「人材力の強化」「グループ総合力の強化」の、5つの基本戦

略を設定し、各種戦略・取り組みを展開してまいります。

### I 業務プロセスの再構築

前中計で取り組んできた、働き方改革・業務改革の成果を具現化するとともに、業務プロセスを抜本的に見直す取り組みをさらに加速させてまいります。

タブレット導入をはじめとしたデジタル化・自動化や本部集中化の取り組みにより、営業店を中心とした業務プロセスの大幅な効率化を進め、生産性を飛躍的に向上させるとともに、効率化された「ヒト・時間・空間」などのリソースをコア事業や成長分野などに投入し、営業力の向上やイノベーションの創出を図ってまいります。

### II 事業モデルの高度化

お客さまとの対話を通じて真の課題やニーズを把握し、デジタル技術などを活用しながら専門性を極めた高品質な金融サービスを提供することで、お客さまから真の評価を獲得する、お客さま本位のソリューション営業スタイルを確立してまいります。

法人のお客さまに対して、企業のライフステージに応じた高度で最適なソリューションを提供するとともに、個人のお客さまに対しては、ニーズ別に専門人材を配置した体制を構築し、高品質なサービスを提供してまいります。

また、市場運用については、貸出金に

次ぐ第二の収益の柱とすべく、多様化投資の拡充や分散投資によるリスク抑制型のポートフォリオを構築していくことで、収益の向上および安定化を図ります。

### III デジタルトランスフォーメーションの推進

デジタル技術進展に伴う、お客さまの行動の変化や社会構造の変容に対応するため、業務プロセス・意思決定方法・お客さまへの提供価値といった従来からの銀行ビジネスそのものを、デジタル技術を使って根本的に変革する「デジタルトランスフォーメーション」を推進してまいります。

### IV 人材力の最大化

変革をリードしていく人材、法人・個人の金融高度化を担う人材、デジタルの専門人材など、多様かつ高度な人材の育成を図るとともに、従業員が「働き甲斐」を実感できる体制を整備していくことで、組織の持続的成長を実現してまいります。

### V グループ総合力の強化

FFGの基本的な経営スタイルである「シングルプラットフォーム・マルチブランド」をさらに磨き上げ、グループ会

社の機能を徹底的に活用することで、これまで以上にお客さまに最適なソリューションを提供してまいります。

また、グループ内外のコミュニケーションを活性化させることで、環境の変化やお客さまのニーズの変化に柔軟に対応できる組織への変革を図ってまいります。

## 目標とする

### 経営指標・配当方針

中計の基本戦略に基づき各種戦略・施策を着実に実行することにより、中計最終年度である2021年度の目標経営指標として、連結当期純利益57.5億円を掲げております。

また、当社では業績連動型の配当テーブルを設定しておりますが、目標とする配当性向(連結)を、これまでの30%程度から35%程度へ引き上げるとともに、これまで設定のなかった連結当期純利益水準550億円以上の配当金目安を新たに設定いたしました。

今後とも、株主、お取引先をはじめ、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えすべく、役員員一丸となって業務に邁進してまいりますので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 持続可能性が問われる背景

「30年後、世界はどのように変わっているんだろう」。多くの人がそう想像して見たことがあると思います。

明るい、暗い、豊か、さみしい…あなたはどんな未来を描いていますか？

今、私たちが暮らす地球は危機を迎えています。人は、あらゆる資源を使ってものを生み出し、消費し、豊かさを追求してきました。その結果、次第に自然環境のサイクルは壊れ、人々の暮らしに格差が生まれました。このままと同じ生活を送っている、そう遠くない将来、全ての資源を使い果たして人々の生活や産業は立ちゆかなくなるといわれています。そうなってしまったら、次の世代に何も残せない、つまり、持続していくことができないということとなります。未来の私たちに、そしてこれから生まれる子どもたちに、少しでも住みよい世界を創り、繋いでいくためにはどうしたらよいのでしょうか。

まずは世界中の人々がこの問題を認識できるように、環境、人権、経済、教育など各分野の人々が話し合い、国連によって17の目標にまとめられたもの、それが、SDGs「持続可能な開発目標」です。

「受け継ぐべき環境や資源を犠牲にせず、今の生活をよりよくする」「サステナビリティ」という考え方のもと、2030年までの達成を目指しています。

# Sustainable Development Goals

持続可能な

開発

目標

# SDGs ~未来を創り、つなげていくために~

最近、よく耳にするようになった「SDGs」。これから私たちが達成していかななくてはならない17の目標を意味しています。

その関心が高まった背景や、ビジネスシーンとの関係性を知ること、その達成に向けて社会がどのように変わろうとしているのかを見つめます。

## 企業ビジネスとSDGs

ただし、SDGsは私たち個人の心がけや行動だけで達成できるものではありません。世界規模の課題解決に向けた活動を継続していくには、多くの「担い手」と「資金」を集める必要があります。2015年に国連でSDGsが採択される前にも同じような国際目標が定められていましたが、各国政府など行政機関の努力を促すものでした。対して、SDGsの大きな特徴は、企業の積極的な関わりが期待されている点です。企業やNPO/NGOなど民間の組織が主体的に取り組むこと、中でも企業に対しては、ビジネスとして社会問題を解決していく仕組みづくりに加え、目標達成に寄与する「投資」や課題解決に繋がる「イノベーション」が求められています。

## SDGsと投資

このような流れの中で、投資家の行動にも変化が生じています。一般的に投資先の選定には、企業の業績や財務情報が基準とされてきましたが、近年、短期的な利益に偏重した投資を問題視する声が出てくるようになりました。その中で、企業の持続可能性を、経営の健全性など中長期的な視点で評価する投資に関心が集まっています。今後、新しい市場・規制・ルール

## 企業のメリットは？

SDGsに取り組むことで企業が得るメリットは、大きく分けて「ビジネス機会の開拓」と「経営リスクへの対応」です。今日のような関心の高まりを受けて、今後、SDGsの課題解決に寄与する製品やサービスは、ニーズの拡大が期待されています。再生可能エネルギーや電気自動車はその一例です。また、温室効果ガス排出量の大幅な削減が求められる中、石炭火力発電などへの投資や融資から撤退しなければならぬという概念が世界的に広まっています。

こうした動きは、収益性だけでなく社会性も備えたビジネスへの期待の表れです。SDGsへの対応が、企業の評判やブランド、従業員のモチベーションなどの向上に結びついていくことを暗に示しています。今やSDGsは高校や大学の学習教材や入試試験の題材として採用され始めていることから、就職採用を前にした学生からの評価対象となっていくかもしれません。反対に、SDGsに対して消極的な姿勢や、課題解決に対してマイナスイノベーションは、長期的に見ると企業価値の毀損に繋がったり、投資資金を引き上げられるなど厳しい対応を迫られることもあります。

17の目標として掲示されることで、世界が直面する課題に対して何をしなければならぬかが“自分事”として見えてきます

「どこか遠い国で起こっていることで、自分には関係がない」—そんな風感じますか？

日本でも、度重なる異常気象、労働や生活格差、エネルギー問題、人口の都市集中化による地方の衰退など、私たちが肌で感じられるほどに、さまざまなひずみが生じています。

これほどスケールの大きな目標に対して、個人の力でできることはあるでしょうか？

日本は、大量消費国のひとつです。例えば、世界的に見ても食品ロスが多いといわれています。食べ残しを減らすという心がけは、いつでも始められるSDGsへの取り組みです。

2030年までに、  
“地球上の誰一人として取り残さない”を理念に、  
全ての国や人が協力し、これらの行動を進めていきます

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**  
世界を変えるための17の目標



知っていますか？  
ESG投資

や競争環境を生み出していく可能性を持つSDGsは、企業の持続可能性に影響を与える要因になり得ます。

環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)の3つに着目した投資スタイル。

- Environment (環境)**
  - ・CO<sub>2</sub>排出量の削減努力
  - ・環境汚染への対策
- Social (社会)**
  - ・地域社会との関わり
  - ・労働環境への配慮
  - ・女性活躍推進
- Governance (ガバナンス)**
  - ・経営の透明性
  - ・株主還元
  - ・情報開示

2006年に、国連が、投資家にとるべき行動を定義する中で策定した。2018年には、世界のESG運用額は日本円で約3,418兆円と、全体の運用額の35%を超えており、機関投資家に限らず、個人投資家にもその考えが拡大している。

本業を通じた社会貢献が問われる時代に

社会貢献という点においては、多くの企業が、CSR(企業の社会的責任)の名の下に幅広い活動に取り組んでいます。例えばFFGでは、環境・生涯学習・ユニバーサルアクションといった支援活動や、ボランティア活動を行ってきました。また、お客さまの課題を解決することを目的とした商品・サービスの開発・提供など、金融ビジネスそのものを地域社会への貢献と捉えて展開しています。

こうした取り組みも、SDGs達成への取り組みの一環として捉えることができ、今後は、さらに「本業」のビジネスで社会の課題解決に取り組むことが期待されるようになります。本業が直接的に関係しない場合でも、社会的課題の解決に繋がる事業を間接的にサポートすることもそのひとつです。

経営計画や戦略にSDGsを組み込み、その言葉を活用して自社の強みやビジョンを語る企業は増えていくでしょう。その積極性や行動が求心力となり、地域や人を巻き込んで17の目標を達成していくこと。それがSDGsの本質であり、一人ひとりが未来を創り繋げて行くという意識を持つべき私たちの、これからの世界の在り方です。

# FFG TOPICS



ふくおかフィナンシャルグループの最近のトピックをご紹介します

## 十八銀行との経営統合

当社グループと株式会社十八銀行は、2019年4月1日に、経営統合を実現しました。両社が持つネットワークや情報、ノウハウの結集によって、従来以上にお客さまをサポートしてまいります。人口減少など厳しい環境下においても、将来にわたり長崎県経済の発展に貢献することを目指します。

今後のスケジュール(予定)

- 2020年10月 親和銀行と十八銀行の合併  
(十八親和銀行の設立)
- 2021年1月 システム統合

### ● 十八親和銀行の設立

2020年10月に誕生する「十八親和銀行」は、長崎(現・十八銀行本店)に本店を、佐世保(現・親和銀行本店)に佐世保本部・佐世保営業部を設置する予定です。



## FFG 十八親和銀行

「J」と「S」をモチーフとしたシンボルマークは、長崎県の県民鳥である2羽のオシドリを表しています。コーポレートカラーには、長崎県の花である「雲仙ツツジ」の色を採用しました。オシドリの「愛情の細やかさ、豊かさ」と、ピンク色が与える親しみやすさや調和のイメージで、地域の方々により身近に感じていただける銀行を目指します。



雲仙ツツジ

## 地域活性化への取り組み

### ● 「ながさき物産展」の開催

親和銀行と十八銀行は、福岡の中心地・天神にある福岡銀行本店広場で長崎の全自治体とともに物産展を開催しました。期間中(4月22日～5月31日)の平日は各自治体の日替わりで出店し、お客さまに見て・食べて・楽しんでいただきながら、地元特産品の販売や観光PRを行いました。



### ● 地域商社「ミナサボ」の設立

親和銀行では、南島原市や東京の1-T企業と連携し、地域商社「ミナサボ」を設立しました。電力小売で得る資金を活用し、農業、観光、高齢者介護などの分野の1-T化を促進します。収益を地域に還元し、地元企業の生産性向上をサポートしていくことを目指します。



### ● 「長崎かんぼこ王国」

十八銀行では、長崎サミットの重点推進項目である「水産練り製品ブランド化事業」長崎かんぼこ王国」を積極的に支援しています。その一環として、かまぼこの試食・販売会を開催するなど、地元産品を盛り上げる取り組みを展開しています。



### ● 農業事業者向け融資商品の取扱い開始

熊本銀行では、農業事業者向けの新たな融資商品として「農業成長おうえん資金」の取扱いを開始しました。日本政策金融公庫の保障制度を活用し、スピーディーな資金調達に加え、これまで以上に幅広い資金使途に対応してまいります。

## BELCA賞の受賞

福岡銀行本店営業部の建物が、国土交通省所管の公益財団法人「ロングライフビル推進協会」が主催する「第28回BELCA賞（ロングライフ部門）」を受賞しました。黒川紀章設計の大胆な構成による巨大な軒下空間を公開空地として地域に開放し続け、近年ではオープンカフェやスロープの設置による大幅改修で街路との繋がりを深めるなど、市民に親しまれる建物として長年にわたる適切な維持保全や優れた改修を実施してきたと評価されました。



## ベンチャー企業支援

当社グループのお取引先とベンチャー企業のマッチングイベント「X-Tech Match up 2019」を開催しました。ベンチャー企業を持つAIやIoTなどの最新テクノロジーを紹介し、地場企業に活用していただくことで、売上増強、販路拡大、業務効率化といった課題解決や新規事業開発をお手伝いすることを目指しています。今後も、イノベーションの加速化に向けた取り組みで、地域のお客さまの成長をサポートしてまいります。



## 店舗・ATM情報

当社グループでは、より利便性の高い店舗づくりを通じて、お客さまに「あなたのいちばんに。」を感じていただけるサービスの提供を目指しています。

熊本銀行では、いつわ支店、宮原出張所、県庁支店を店舗内店舗として移転し、それぞれの跡地に無人のサービス拠点「サテライトプラザ」を新設しました。また、福岡銀行では、八女支店をリニューアルオープンし、FFG証券を新設しました。

### 熊本銀行

- いつわ支店
  - 1/21 天草支店の店舗内に移転
  - 2/4 店舗跡地に「サテライトプラザいつわ」をオープン
- 宮原出張所
  - 2/12 鏡支店の店舗内に移転
  - 2/25 店舗跡地に「サテライトプラザ宮原」をオープン
- 県庁支店
  - 3/11 本店営業部の店舗内に移転
  - 3/25 店舗跡地に「サテライトプラザ県庁」をオープン



### 福岡銀行 FFG証券

#### ●八女支店

5/20 リニューアル

現店舗の隣接地に建替えを行いました。店舗内には新たに「FFG証券」の窓口を設け、銀行と証券が連携しながら、お客さまにより質の高い金融サービスをワンストップでご提供してまいります。



## FFGのコーポレートコミュニケーション(IR)年間カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表		●本決算			●第1四半期決算			●中間決算				●第3四半期決算
株主総会			●									
会社説明会		●						●				
有価証券(四半期)報告書			●		●			●			●	
ディスクロージャー誌			●あなたのいちばんに。編 本誌		●統合報告書・財務データ編				●あなたのいちばんに。編		●財務データ編	
Annual Report						●						

人生100年時代、お客さまのよりゆたかな未来のために、  
 ふくおかフィナンシャルグループでは、『**積立投資**』をおすすめしております！



## あなたとともに歩む積立投資

全てのお客さまにお伝えしたい積立投資のメリットなどを掲載しています。『積立投資を成功させるための3か条』や、お客さまのご意向に合わせた6つのプラン(**FFG積立プラン**)など、情報満載です！

「投資信託は  
 お金がかかりそう…」

**5,000円から  
 購入できます**

事前に必要な資金は  
 少額でOK!

「購入のタイミングが分からず値下がり心配…」

**いつ始めても、投資成果は  
 あまり変わりません**

一括投資と違い、時間を分散する方法でコツコツ投資をするので、いつ始めても、長期では成果に大きな差は出ません。タイミングや値動きに神経を使わずスタートできます。

さらに、お客さまのライフステージに合わせて、2つのパンフレットもご準備しております。

【現役世代のお客さまへ】



### ゆたかな未来のための積立投資

セカンドライフまでの長い時間を味方に、**自分のための年金づくりの方法**をご紹介します。

【退職前後のお客さまへ】



### 退職金を活かした積立投資

退職金を積立の原資に充て、**公的年金の不足分を補う方法**をご紹介します。

“投資を始めるタイミング” や “FFG積立プラン” を使って運用した場合のシミュレーション” など、具体的な数字で分かりやすくご説明しています。ぜひ、ご覧ください。

【ご留意事項】

2019年6月現在

※「投資信託」は、市場動向等により投資元本を割り込むおそれがあります。

※ご検討にあたっては、「商品パンフレット」「契約締結前交付書面」および「目論見書」等の書面の内容を十分にお読みください。

## マネーアプリ「Wallet+」が 70万ダウンロード達成

iBankマーケティングが提供するマネーアプリ「Wallet+」が、70万ダウンロードを達成し、ユーザーの貯蓄預金残高は100億円を超えました。簡単な質問に答えるだけで家計改善のアドバイスが受けられる「ライフプランコーチ」を導入するなど、より利便な機能を拡充しています。日々の家計管理から人生設計までをスマホで体験できる新たな価値を提供していきます。



## 吉瀬美智子さんをCMに起用

2019年4月より福岡銀行、熊本銀行、親和銀行でスタートしたマイレージサービス「マイバンクプラス」のイメージキャラクターに女優の吉瀬美智子さんを起用しています。幅広い年代のお客様さまに新サービスをご利用いただきたいという思いを背景に、世代を問わず知名度が高く、福岡県出身で九州に馴染みのある吉瀬さんによるプロモーションを展開し、サービス認知やイメージアップに繋げてまいります。



## 十八銀行との経営統合記念 海外ビジネスイベントの開催

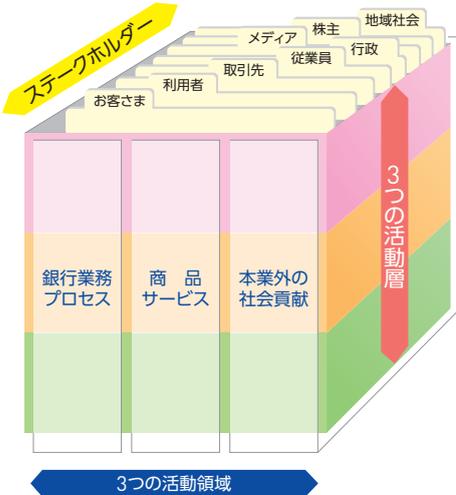
当社グループと十八銀行の経営統合を記念し、海外ビジネスイベントを計3回開催します。第1回目となる海外ビジネスセミナーでは、長崎市および佐世保市の各会場で「外国人材の活用」に関する講演および「長崎企業による海外進出」パネルディスカッションを実施しました。今後、第2回海外ミッション団派遣、第3回海外駐在員によるセミナー・交流会と展開していく予定です。



# CSRレポート 2019

Corporate Social Responsibility  
Report 2019

当社グループでは、  
経営理念の実践とも言うべき  
事業活動そのものが、  
「CSR」と考えています。



**活動層 1 環境共生活動**  
地球に負の影響を及ぼす環境負荷の抑制・軽減に努め、環境保全に資する商品・サービスを提供します。

**活動層 2 生涯学習支援**  
全ての人々のライフサイクルに応じたさまざまなシーンで、金融知識の普及を通じた生涯学習を支援してまいります。

**活動層 3 ユニバーサルアクション**  
店舗や商品・サービス、窓口での対応などさまざまな面において「みんなにやさしい」アクションを展開します。

## 銀行業務プロセスによるCSR

コーポレートガバナンス、法令等遵守、各種リスク管理、情報開示といった企業経営の根幹となる体制構築・整備をはじめ、従業員の雇用や自らの環境負荷軽減活動などといった、銀行業務の全プロセスにかかる取り組み。

## 銀行の商品・サービスによるCSR

銀行の持つ金融機能を活用して、社会的に意義ある商品・サービスを開発・提供する取り組みおよび金融ビジネス。

## 本業外の社会貢献によるCSR

本業とは直接的な関係は薄いが、経営資源を活用して、社会的課題に関与する取り組み（ボランティア、文化芸術活動など含む）。

エネルギー削減量

# 23.2%

継続的なエコ・アクションによる2018年度下期のエネルギー削減量(2010年同期比)

九州の豊かな自然は、私たちの宝。  
環境負荷の抑制・軽減に努め、  
環境に配慮した商品・サービスを提供します。

## Promotion of Environmental Harmony 環境共生活動

FFGでは、環境に配慮した商品・サービスの提供や環境負荷の抑制・軽減に向けた活動を展開しています。

### 4つの柱

①EMSの継続の実施  
地域の環境保全のために、目標を設定し、具体的な活動を通じて達成を目指します。  
②本業を通じて環境活動の側面からも地域貢献に努めます。  
③環境配慮活動の実施  
省エネ・負資源活動への取り組みおよび環境保全に配慮した社会貢献活動の実践により、環境への負荷軽減に努めます。  
④全役職員への周知と徹底  
本方針を当グループ全役職員が認識し、一人ひとりが環境問題について考え、自主的に行動し、改善活動を実践していきます。

### 支店独自の取り組み

#### 福岡銀行 門司駅前支店

門司駅周辺を中心に、定期的に清掃活動を実施しています。2018年下期は、門司駅から門司港駅まで3時間かけて歩いてゴミ拾いを行うイベントに継続参加しました。環境美化活動を通じて地元企業や住民の方々の繋がりを深めながら、地域に貢献していきます。

#### 熊本銀行 人言支店

地域で行われる祭りの翌日は大量のゴミが散乱するため、店舗帯で清掃活動を定期的に行っています。近隣の方々

から感謝の声も寄せられ、地域に根ざす銀行として、「人吉に恩返しを」の気持ちで今後も地域貢献に取り組んでまいります。

#### 親和銀行 浜田町支店

市民大清掃の日、店周辺の浜田公園清掃に参加しました。  
一体感のある支店オリジナルTシャツを着て清掃活動を行なうなかで自然と会話も増え、地域の方々や行員の間でコミュニケーションの輪が広がるいい機会となりました。

#### 十八銀行

長崎観光「おもてなし向上」推進の一環で開催されるおそうじさくへん(帆船まつり前)に、浦上支店と秘書室の行員が参加しました。地元大学生による観光ガイドとともに、名所をめぐりながら路地の清掃を行いました。親和銀行地域振興部も参加し、地域体の取り組みとなりました。



# 生涯学習支援

全ての人々のライフサイクルに  
応じたさまざまなシーンで、  
金融知識の普及を通じた  
生涯学習を支援しています。



高校生金融経済クイズ選手権



キッズキャンパス

FFGでは、金融知識の普及をサ  
ポートしたり、文化芸術・スポーツ活  
動の機会を提供することで、次世代を  
担う子どもたちの生涯学習を通じた  
成長を支援しています。

## 金融教育支援

### 小学生向けの金融教室

親和銀行では、小学生180名が参  
加した、長崎国際大学が開催する子ど  
も版公開講座「N-Uキッズキャンパス  
」で教室を開催しました。銀行の話や模  
擬紙幣を使った体験を通じて、保護者を  
含め約100名の参加者にお金にま  
つわる学びを提供しました。

### 高校生金融経済クイズ選手権

十八銀行では、第13回全国高校生金  
融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子  
園」の長崎大会を主催し、行員24名がポ  
ランテアで大会運営をサポートしま  
した。今回は、県内より11チーム22名が  
参加し、筆記クイズから決勝ラウンド  
までレベルの高い白熱した試合が展開  
され、大いに盛り上がりました。

楽しみながら金融経済の仕組みを  
学んでいただき、夢を実現し、生活を  
守る「金融知力」を培う機会を提供し  
ています。

### マンガミュージアム

熊本銀行は、熊本県合志市にある  
マンガミュージアムに、お金や経済に  
まつわるマンガを集めたコーナーを新

設しました。地域の皆さまが金融に親  
しむきっかけづくりを目的に、銀行員  
を主人公とした  
「監査役 野村修  
平」や「島耕作」シ  
リーズなど約20  
0冊を寄贈してい  
ます。



## 文化芸術・スポーツ活動

### ラグビーフェスタ

福岡銀行ラグビー部では、11回目と  
なる「FFGラグビーフェスタ」を開  
催しました。福岡・熊本・長崎の3県か  
ら、主に小学校高学年からなる少年ラ  
グビーチームの子どもたち90名を招  
待し、プレーの楽しさを学んでいた  
きました。交流試合では、大人顔負けの  
タックルやランニングにたくさんの声  
援が送られました。今後もスポーツ振  
興を通じて地域の子どもたちの成長を  
サポートしていきます。

### 女性合唱フェスティバル

熊本銀行協賛による第33回「女声合  
唱フェスティバル」を開催し、31団体約  
600名が参加しました。エンディン  
グで熊本地震復  
興の祈りを込め  
て全員で「ふるさ  
と」を合唱し、力  
強い歌声がホー  
ル内に響き渡り  
ました。



地域社会、地球環境を含めた「みんなにやさしい」の実現を  
目指したアクションを展開しています。

# ユニバーサルアクション



多目的トイレの設置 comuoon コミュニケーションボード 車椅子寄贈

「みんなに優しい銀行を目指して」  
FFGでは、障がいのある方や、高  
齢の方などに特定せず、誰もがもつ利  
用しやすい「みんなに優しい」銀行を目  
指しています。

ハード面では、これまでに各種ユニ  
バーサルツールを全店に配置し、バリア  
フリー対応に向けて体制を整えてまい  
りました。聴こえの改善に役立つ  
「comuoon」(卓上型対話システ  
ム)を一部店舗で設置し、高性能なマイ  
クスピーカーの活用によって快適な対  
面コミュニケーションをサポートして  
います。

ソフト面では、日本ユニバーサルマ  
ナー協会が運営する「ユニバーサルマ  
ナー検定」を導入しており、2019年  
3月末時点で1645人が3級を、11  
5人が2級を取得しています。

より多くのお客さまに心地よく過ご  
していただける店舗づくりを通じて、  
「あなたのいちばんに。」の実現に取り組  
んでいます。

## 地域貢献活動

### 地域振興へのサポート

FFG文化芸術財団では、福岡・熊  
本・長崎の3県において、地域振興に繋  
がる活動を行っている個人・団体に対  
し、公益事業「ふるさと振興基金」とし  
て活動資金の助成を行っています。20  
18年度下期は、3県で総額3,000万円  
を12先へ助成しました。  
公益財団法人十八銀行社会開発振

興基金)では、長崎県内における地域の  
教育、科学、文化、スポーツ、社会生活環  
境の整備および国際化等に関する活動  
をサポートするため、2018年度  
下期には総額284万円を10先に助成  
しました。

### 熊本城マラソンボランティア

震災復興支援の環として、熊本銀行  
行員が熊本城マラソン2019に  
ボランティアスタッフ、ランナーとして  
参加しました。沿道整理などのボラン  
ティア活動をしながら、平成最後のい  
だてんランナーを応援し、熊本の「大ス  
ポーツイベント」を盛り上げました。

## 社内の取り組み

### TABLE FOR TWO

2009年6月から、従業員の健康維  
持と社会貢献へ同時に取り組み  
「TABLE FOR TWO」  
に参加しています。グループ内4拠点の  
社員食堂でヘルシーメニューを注文す  
ると、1食につき20円が発展途上国の学  
校給食費として寄付されます。201  
9年3月末までの寄付金は、合計  
2,600,130円となります。

# ふくおかフィナンシャルグループ 経営戦略

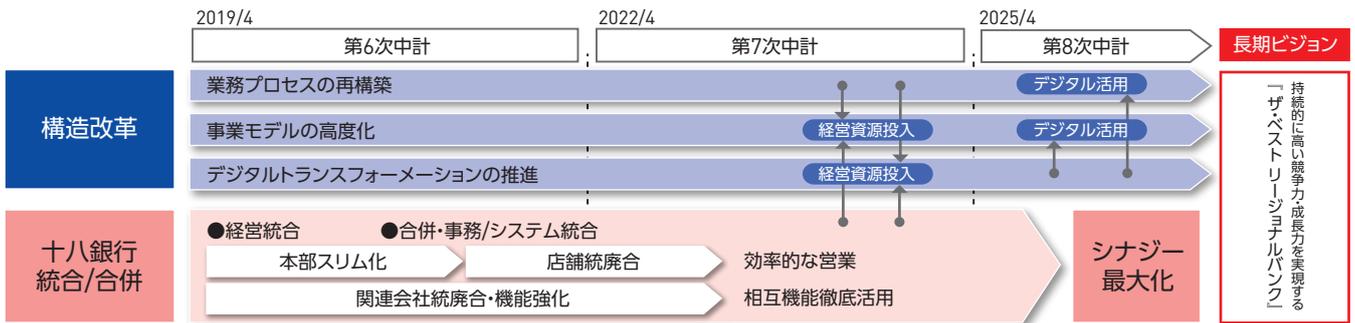
## FFGが目指す姿

当社グループは、福岡県、熊本県、長崎県を中心とした九州全域にネットワークを有する広域展開型地域金融グループです。シングルプラットフォーム・マルチブランドの経営スタイルにより、地域経済の発展に資するさまざまな活動を展開しております。

地域金融機関を取り巻く経営環境は、人口減少・少子高齢化の進行、低金利環境の長期化といった構造的課題に加え、デジタル技術の急速な進展によって異業種から金融業への新規参入が相次ぐなど、一層厳しさを増していくことが想定されます。

こうした環境下、当社では、「構造改革」への取り組みで捻出した経営

資源(ヒト・時間・空間など)の成長分野への投入やデジタル技術の活用により、事業モデルを高度化させるとともに、事業領域の更なる拡大に向けた基盤の構築を進めてまいります。加えて、長崎における十八銀行との経営統合、親和銀行と十八銀行の合併を確実に遂行し、統合シナジー効果を早期に創出することで、長崎の経済活性化に貢献してまいります。この2つの戦略オプションの効果を融合させ、長期ビジョンとして掲げる「持続的に高い競争力・成長力を実現する『ザ・ベストリージョナルバンク』」を目指してまいります。



## 第6次中期経営計画 (2019年4月~2022年3月)

2019年4月からスタートした第6次中期経営計画では、基本方針「地域経済発展への貢献」と「FFG企業価値の向上」との好循環サイクルの実現に基づき、「業務プロセスの再構築」「事業モデルの高度化」「デジタルトランスフォーメーションの推進」による構造改革と、それを下支えする「人財力の最大化」「グループ総合力の強化」の、5つの基本戦略を設定し、進化に向けたさまざまな取り組みを展開してまいります。

### ■ 基本方針



### ■ 基本戦略(5本柱)

- I. 業務プロセスの再構築
- II. 事業モデルの高度化
- III. デジタルトランスフォーメーションの推進
- IV. 人財力の最大化
- V. グループ総合力の強化

### ■ 目標指標

	最終年度目標 (2021年度)	2018年度比 <sup>*2</sup>
当期純利益(連結) <sup>*1</sup>	575億円	+15億円程度
ROE	6%程度	横ばい
自己資本比率	12%程度	+1%程度
OHR(連結)	60%程度	▲4%程度

<sup>\*1</sup> 親会社株主に帰属する当期純利益を指します。  
<sup>\*2</sup> 比較対象としている2018年度は十八銀行合算ベースとなります。

## 利益還元

当社グループでは、企業価値を高めることで株主価値の向上を図ることを基本とし、株主の皆さまに対する利益還元につきましては、業績連動型の配当方針(配当テーブル)を採用しております。第6次中期経営計画では、目標とする配当性向(連結)を従来の30%程度から35%程度へ引き上げ、連結当期純利益の水準に応じて配当金をお支払いする方針といたします(但し、事業展開やリスク環境等により変更することがあります)。

### ■ 配当金目安テーブル

	当期純利益(連結) <sup>*</sup>	年間配当金目安	配当性向
新設	600億円以上	115円~	~37%
	550億円以上~600億円未満	105円~	33~36%
	500億円以上~550億円未満	95円~	33~36%
	450億円以上~500億円未満	85円~	32~36%
	400億円以上~450億円未満	75円~	32~36%
	350億円以上~400億円未満	65円~	31~36%
	300億円以上~350億円未満	55円~	30~35%
	250億円以上~300億円未満	50円~	32~38%
	200億円以上~250億円未満	45円~	34~43%
	150億円以上~200億円未満	40円~	38~51%
150億円未満	35円~	45%~	

<sup>\*</sup>親会社株主に帰属する当期純利益を指します。

### ■ 1株あたり配当金

	2017年度	2018年度	2019年度予 <sup>*</sup>
中間期	7.5円	8.5円	42.5円
期末	7.5円	42.5円	42.5円
年間	15円	-	85円

<sup>\*</sup>2019年度は、十八銀行との経営統合による一過性の要因があるため、上記配当テーブルにかかわらず前年度配当額と同水準の85円を下限にお支払いする予定です。  
 なお、業績を上方修正する場合、配当額は改めて検討します。

# ふくおかフィナンシャルグループ 2018年度の業績ハイライト

## 損益状況

### 3行単体合算

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	前年比
業 務 粗 利 益	1,743	1,787	44
資 金 利 益	1,525	1,562	37
役 務 取 引 等 利 益	219	193	▲26
特 定 取 引 利 益	0	0	0
そ の 他 業 務 利 益	▲1	32	32
経費(除く臨時処理分)▲	1,016	1,004	▲12
業 務 純 益	727	786	59
コ ア 業 務 純 益	744	772	28
信 用 コ ス ト ▲	▲30	38	68

### FFG連結

経 常 利 益	716	741	25
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	494	516	23

### コア業務純益【2期連続増益】

資金利益の増加や、経費の減少により、前年比+28億円増加の772億円となりました。

### 連結経常利益【2期連続増益(過去最高益)】

信用コストは増加した一方、コア業務純益、国債等債券損益、株式等関係損益及びその他臨時損益等が増加したこと等により、前年比+25億円増加の741億円となりました。

### 親会社株主に帰属する当期純利益【2期連続増益(過去最高益)】

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比+23億円増加の516億円となりました。

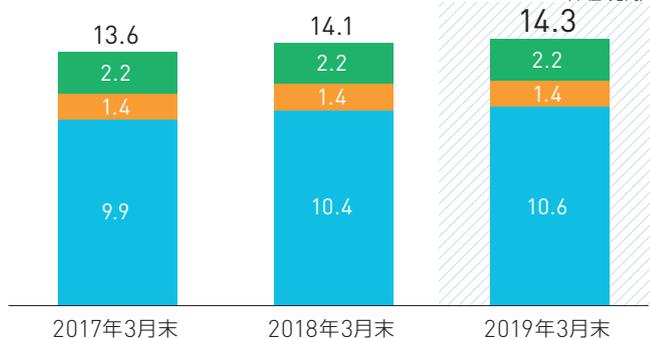
当社は、2019年4月1日付で十八銀行と経営統合しました。業績ハイライトは、経営統合前の期間を対象としているため、十八銀行の計数を含んでおりません。なお、十八銀行の業績ハイライトは、P18に記載しております。

## 総資金(預金+NCD)の状況(3行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、個人預金を中心に堅調に推移した結果、前年度末比2,286億円増加し、14兆3,589億円となりました。

### 総資金期末残高

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■親和銀行  
(単位:兆円)

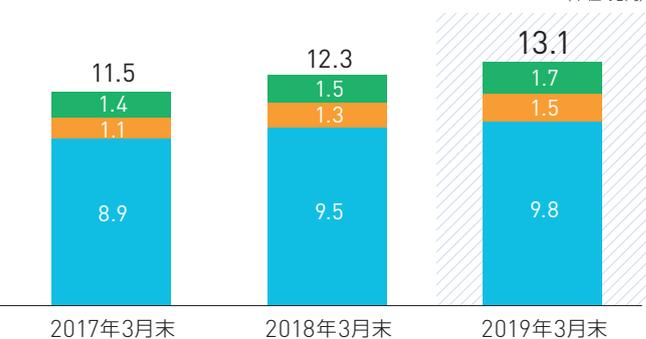


## 貸出金の状況(3行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的に応えた結果、前年度末比7,749億円増加し、13兆1,523億円となりました。

### 貸出金期末残高

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■親和銀行  
(単位:兆円)

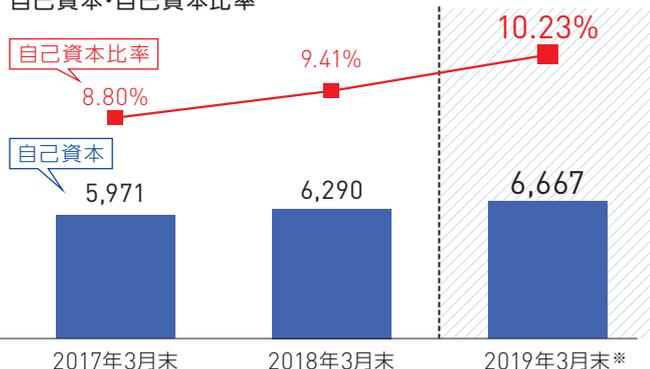


## 自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比376億円増加し、6,667億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.82%上昇し、10.23%となりました。

### 自己資本・自己資本比率

(単位:億円)



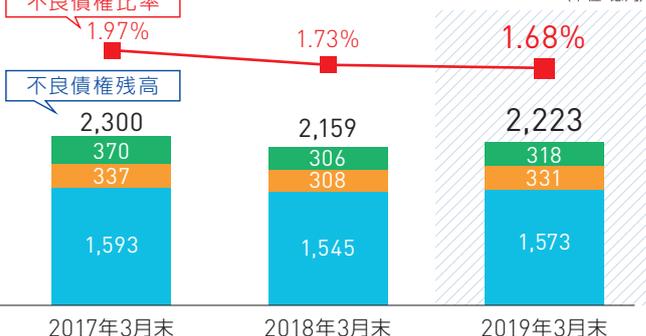
\*2019年3月末から、先進的内部格付手法により信用リスクアセットを算出しております。

## 不良債権の状況(3行単体合算)

不良債権残高は、前年度末比64億円増加し、2,223億円となりました。不良債権比率は同0.05%低下し、1.68%となりました。

### 不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



# 福岡銀行 2018年度の業績ハイライト

## 損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	前年比
業務粗利益	1,273	1,329	56
資金利益	1,109	1,147	38
国内部門	1,035	1,070	35
国際部門	74	77	3
役務取引等利益	166	153	▲13
特定取引利益	0	0	0
その他業務利益	▲2	29	32
経費(除く臨時処理分)▲	676	668	▲8
業務純益	604	662	58
コア業務純益	613	650	37
経常利益	570	688	118
当期純利益	404	503	99
信用コスト▲	12	21	8

### コア業務純益

資金利益の増加や、経費の減少により、前年比+37億円増加の650億円となりました。

### 経常利益

信用コストは増加した一方、コア業務純益や株式等関係損益の増加等により、前年比+118億円増加の688億円となりました。

### 当期純利益

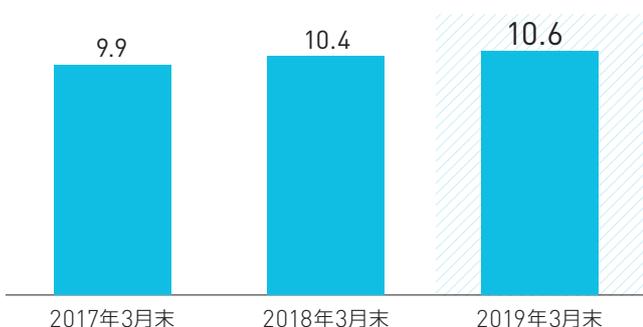
前年比+99億円増加の503億円となりました。

## 総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比2,489億円増加し、10兆6,575億円となりました。

### 総資金期末残高

(単位:兆円)

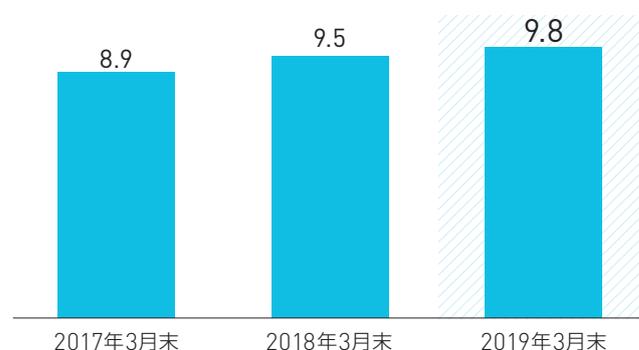


## 貸出金の状況

貸出金は、前年度末比3,857億円増加し、9兆8,978億円となりました。

### 貸出金期末残高

(単位:兆円)

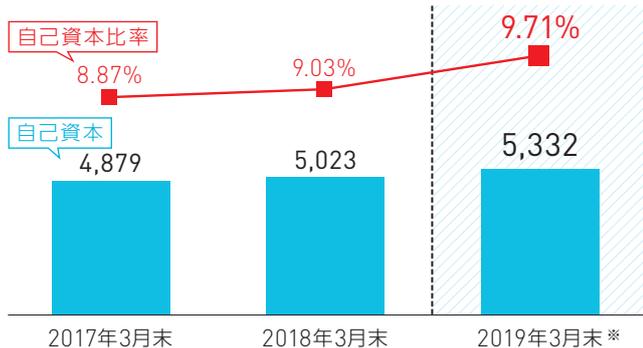


## 自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比309億円増加し、5,332億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.68%上昇し、9.71%となりました。

### 自己資本・自己資本比率

(単位:億円)



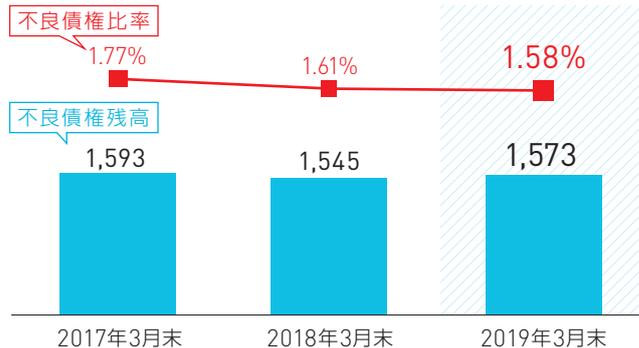
※2019年3月末から、先進的内部格付手法により信用リスク・アセットを算出しております。

## 不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比29億円増加し、1,573億円となりました。不良債権比率は同0.03%低下し、1.58%となりました。

### 不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



# 熊本銀行 2018年度の業績ハイライト

## 損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	前年比
業 務 粗 利 益	195	194	▲2
資 金 利 益	177	179	3
国内部門	176	179	3
国際部門	1	1	0
役 務 取 引 等 利 益	18	14	▲4
そ の 他 業 務 利 益	0	1	0
経費(除く臨時処理分)▲	139	139	▲1
業 務 純 益	56	61	5
コ ア 業 務 純 益	56	55	▲1
経 常 利 益	65	45	▲19
当 期 純 利 益	50	38	▲12
信 用 コ ス ト ▲	▲8	8	17

### コア業務純益

資金利益は増加した一方、役務取引等利益の減少等により、前年比▲1億円減少の55億円となりました。

### 経常利益

信用コストの増加等により、前年比▲19億円減少の45億円となりました。

### 当期純利益

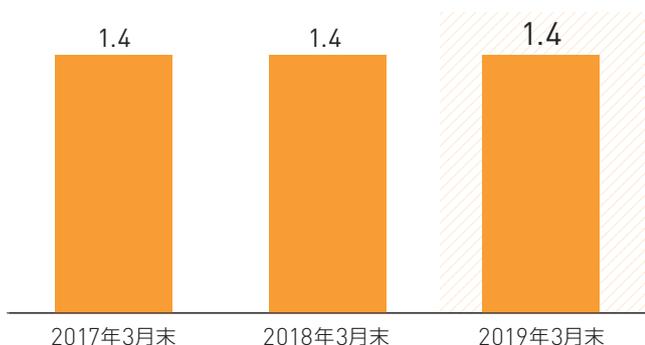
前年比▲12億円減少の38億円となりました。

## 総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比263億円減少し、1兆4,195億円となりました。

### 総資金期末残高

(単位:兆円)

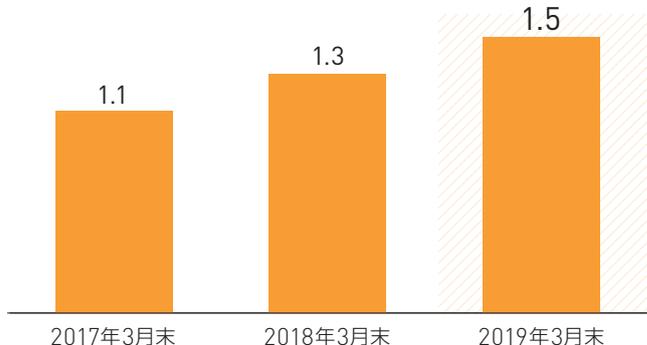


## 貸出金の状況

貸出金は、前年度末比2,198億円増加し、1兆5,344億円となりました。

### 貸出金期末残高

(単位:兆円)

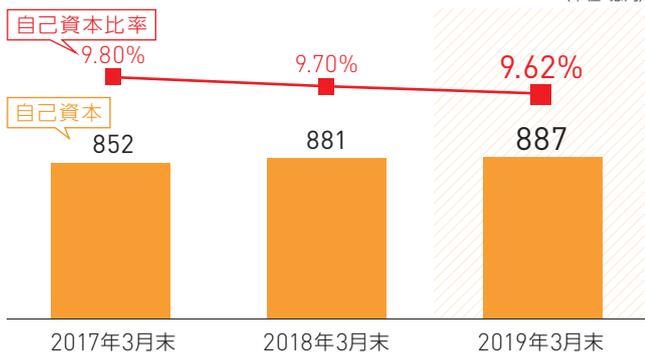


## 自己資本比率の状況

自己資本は前年度末比6億円増加し、887億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.08%低下し、9.62%となりました。

### 自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

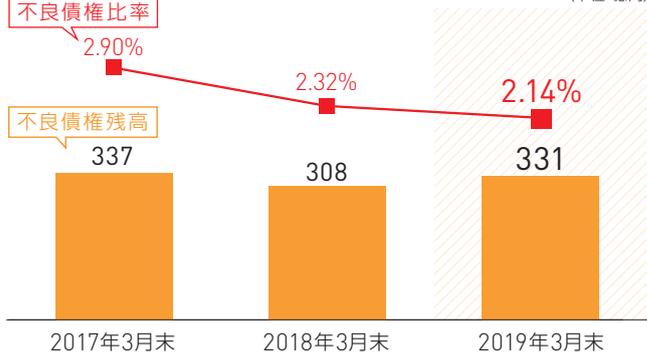


## 不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比23億円増加し、331億円となりました。不良債権比率は同0.18%低下し、2.14%となりました。

### 不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



# 親和銀行 2018年度の業績ハイライト

## 損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	前年比
業 務 粗 利 益	275	264	▲11
資 金 利 益	239	235	▲4
国内部門	238	234	▲4
国際部門	1	1	0
役 務 取 引 等 利 益	35	27	▲8
そ の 他 業 務 利 益	1	2	1
経費(除く臨時処理分)▲	200	197	▲3
業 務 純 益	75	63	▲12
コ ア 業 務 純 益	75	67	▲9
経 常 利 益	112	60	▲52
当 期 純 利 益	85	41	▲44
信 用 コ ス ト ▲	▲34	9	43

### コア業務純益

資金利益や、役務取引等利益の減少等により、前年比▲9億円減少の67億円となりました。

### 経常利益

信用コストの増加等により前年比▲52億円減少の60億円となりました。

### 当期純利益

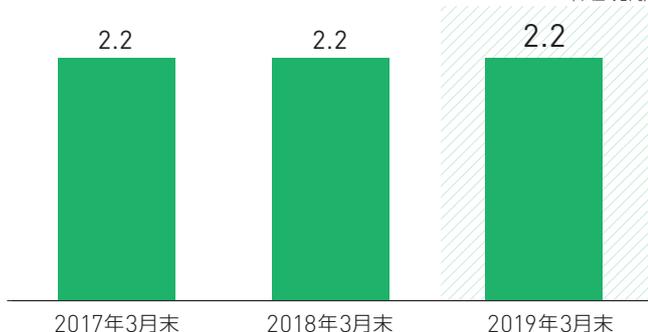
前年比▲44億円減少の41億円となりました。

## 総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比60億円増加し、2兆2,819億円となりました。

### 総資金期末残高

(単位:兆円)

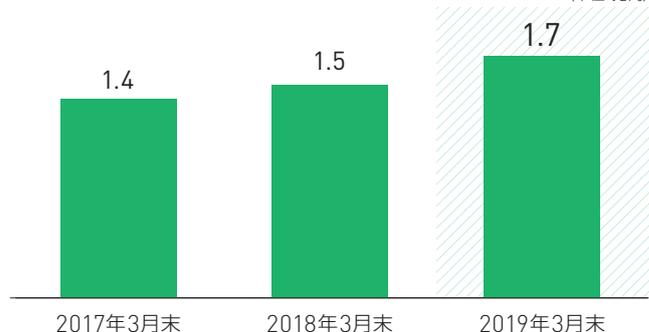


## 貸出金の状況

貸出金は、前年度末比1,693億円増加し、1兆7,200億円となりました。

### 貸出金期末残高

(単位:兆円)

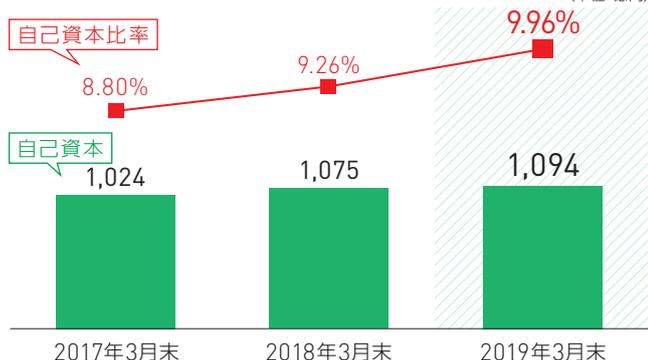


## 自己資本比率の状況

自己資本は前年度末比19億円増加し、1,094億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.70%上昇し、9.96%となりました。

### 自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

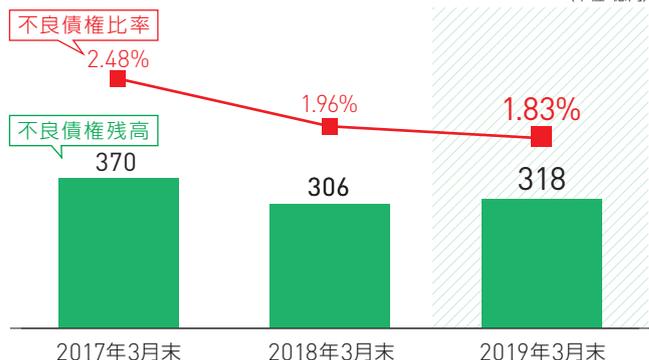


## 不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比12億円増加し、318億円となりました。不良債権比率は同0.13%低下し、1.83%となりました。

### 不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



# 十八銀行 2018年度の業績ハイライト

## 損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	前年比
業 務 粗 利 益	297	282	▲15
資 金 利 益	264	259	▲5
国内部門	249	248	▲1
国際部門	15	11	▲4
役 務 取 引 等 利 益	25	24	▲1
そ の 他 業 務 利 益	7	▲2	▲9
経費(除く臨時処理分)▲	222	215	▲7
業 務 純 益	77	68	▲9
コ ア 業 務 純 益	65	67	2
経 常 利 益	69	67	▲2
当 期 純 利 益	51	41	▲10
信 用 コ ス ト ▲	9	13	4

### コア業務純益

資金利益は減少した一方、経費の減少により、前年比+2億円増加の67億円となりました。

### 経常利益

信用コストの増加等により前年比▲2億円減少の67億円となりました。

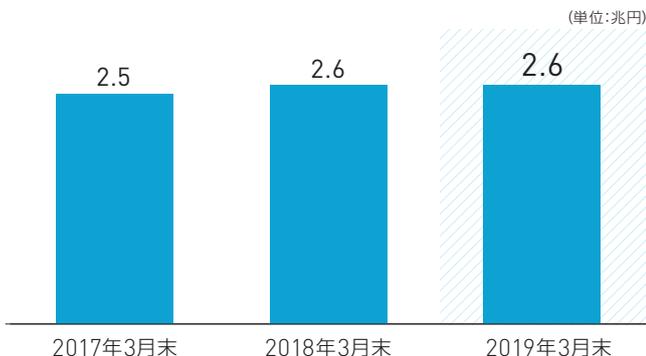
### 当期純利益

前年比▲10億円減少の41億円となりました。

## 総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比11億円増加し、2兆6,322億円となりました。

### 総資金期末残高



## 貸出金の状況

貸出金は、前年度末比2,148億円増加し、1兆8,851億円となりました。

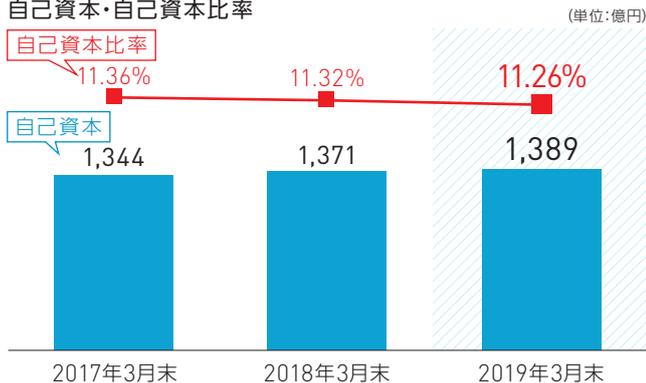
### 貸出金期末残高



## 自己資本比率の状況

自己資本は前年度末比17億円増加し、1,389億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.06%低下し、11.26%となりました。

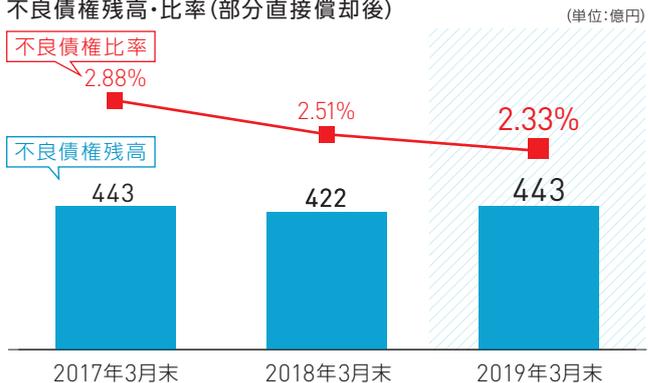
### 自己資本・自己資本比率



## 不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比21億円増加し、443億円となりました。不良債権比率は同0.18%低下し、2.33%となりました。

### 不良債権残高・比率(部分直接償却後)





**FFG** ふくおかフィナンシャルグループ

商号等	株式会社福岡銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第7号	株式会社熊本銀行(登録金融機関) 九州財務局長(登金)第6号	株式会社親和銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第3号	株式会社十八銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第2号	FFG証券株式会社(金融商品取引業者) 福岡財務支局長(金商)第5号
加入協会	日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会	日本証券業協会	日本証券業協会	日本証券業協会	日本証券業協会